

農業技術

プリズム

茶の重要病害である炭疽(たんそ)病は、降雨などにより新芽が10時間以上ぬれることで感染する。秋芽生育期の茶炭疽病防除は、萌芽(ほろが)期に保護殺菌剤、3葉期に治癒効果のあるDMI剤を散布するが、萌芽期に降雨が続く場合、散布時期を逃してしまい、炭疽病が多発する状況が生じている。

そこで、多雨期に炭疽病を効率的に防除するため、2葉期に保護殺菌剤と治癒効果が認められるQOI剤の混用1回散布の防除効果を調査した。

その結果、2葉期にスクレアフロアブル(QOI剤)と

ダコニール1000(保護殺菌剤)を混用1回散布すると、炭疽病の発病が抑えられ、慣行の防除体系である萌芽期に保護殺菌剤、3葉期に

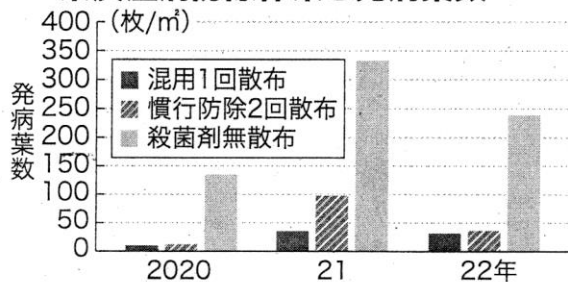
秋芽生育期の茶炭疽病防除

効率的な薬剤散布法

2葉期に混用で1回

DMI剤を散布した2回散布と比べ発病葉数が少なく、萌芽期に降雨があり薬剤散布が行えない場合に混用1回散布で炭疽病を防除できることが

図 秋芽生育期における茶炭疽病防除体系と発病葉数



明らかとなった。

スクレアフロアブルの降雨後の治癒効果期間は7日後まで認められ、10日以降は効果が低下する。

なお、薬剤耐性菌防止の観点からスクレアフロアブルも含めてQOI剤の使用は年1回までに抑えるようにしよう。

(長崎県農林技術開発セン
ター果樹・茶研究部門茶業研
究室研究員 獅子島惇朗)